

少しの行動で何かが変わる

松原市立天美南小学校 5年 土井 迎紅

ぼくは、朝早くに登校して、夕方ぐらいに下校します。何げなく地面を見ると、不法投棄されたであろうペットボトルや、紙くず、さらにはタバコまで。その光景がぼくの脳裏に焼き付きました。同時に、「自分もそんな行動をするようになるかもしれない」という怖さを感じました。

別の日、ぼくは、あるニュースの見出しに目をうばわれました。

「川の河川敷に、カキを採った人が殻を不法投棄していた」というものです。記事を読むと、この不法投棄でけが人が出たとのことでした。ぼくは、何の罪もない人が被害にあったことに、「なぜ不法投棄をするのだろうか。モラルやマナーがないのか。」と、少しの疑問と少しの怒りが混ざった気持ちになり、心が痛くなりました。

数日後。いつものように朝早くに登校していると、駅前に不法投棄されたゴミを拾い、掃除をする男性がいました。その光景を見たぼくは、最近見聞きした不法投棄に対する怒りの気持ちを忘れていきました。それだけでなく、うれしさを感じました。「ぼくだって、少しの行動がとれるかもしれない。その行動で、世界が少しでも変わるかもしれない。」

そこで、自分だったら何ができるかを考えました。

まず、自分が持っているゴミは、そこら中に捨てないという行動をとることです。当たり前前の事だと思いますが、もう一度、自分自身をふりかえる必要があると考えました。次に、「ゴミ拾いをして、街をきれいにしたい。」ということです「自分以外の人が捨てたゴミがなくならなければ変わらない。」と考えたからです。駅前にいたゴミ拾いをしている男性を見て、この行動は、街、日本、世界のどこかが変わる仕事であると感じたからです。

自分一人ぐらいゴミを捨てても、だれも困らないだろうと思っていても、その街で暮らす人は心を痛めています。

「自分さえ良かったら、何をしても良い」という、身勝手な行動は絶対にしてはいけないという認識が深まりました。

これから自分は、身勝手な行動をせず、街のみんな一人ひとりが笑顔で、そして、平和で暮らせるようにしていきたいです。街で不法投棄されたゴミを拾ってキレイにすることはできなくても、駅前でゴミ拾いをしていた男性のように、学校や身近な場所をきれいにしたいと思います。今までとは違って、もう少し身近なことを見つめ直していきたいです。

私達一人ひとりが少しの行動をすることで、この街、この国、この世界の「何かが変わる」ということを、ぼくは信じています。